

がんゲノムプロファイリング検査に提出する病理組織検体 v2.0

ご提供いただく病理組織検体

原則としてホルマリン固定パラフィン包埋（FFPE）ブロックをご提出ください

- 山梨大学医学部附属病院病理部で未染標本を作製、チェックします
- 以下の点をご確認ください

- 検体採取後すみやかに 10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬され、6～72 時間固定された検体である
- 酸脱灰操作が行なわれていない（脱灰が必要な場合は、EDTA を主成分とする中性脱灰液を使用している）
- 腫瘍細胞の量・割合が最も多いブロックである（量が少ない場合、解析がうまくできない可能性があります）
- 最適なブロックが分からないときは、腫瘍を含む代表的なブロックを複数お貸しいただければ当院で選定します

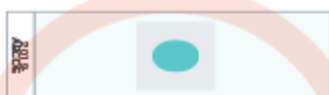
FFPE ブロックが提出できない場合、未染標本をご提出ください

- 山梨大学医学部附属病院病理診断科/病理部で提出可能かチェックをします
 - 以下の点を必ずご確認ください
- **1枚のスライドには一つの切片のみとし、全て同一ブロックから薄切する**
 - **全てのスライドに、同一の「検体番号」を鉛筆で記載する**
 - **患者さんの個人を特定できる情報（氏名）は記載しない**
 - 検体採取後すみやかに 10%中性緩衝ホルマリン溶液に浸漬され、6~72 時間固定された検体である
 - 酸脱灰操作が行われていない（脱灰が必要な場合は、EDTA を主成分とする中性脱灰液を使用している）
 - 切片上の全有核に占める腫瘍細胞の割合が 30%以上ある（最低でも 20%以上ある）
 - 厚さ 4-5 μm で切片を薄切する
 - 表面積 25mm²以上の場合：厚さ 4~5 μm の組織切片を 25 枚以上作製する
 - 表面積 25mm²未満の場合：切片の合計体積が 1mm³以上になるように、厚さ 4~5 μm の切片の枚数を追加する
 - 未染色スライドは正電荷スライドガラス（剥離防止コートスライドガラス）を用い、伸展・乾燥のための加熱（ベークイング）は避ける

注意：スライド上の切片数

1枚のスライドには、一つの切片のみを載せてください。1枚のスライドに複数の切片が載っている場合は、検査を受け付けることができません。

〈受け付け可能な例〉



1枚のスライドに、一つの切片のみが載っている



針生検検体の場合、一つのブロックに同時に採取した複数のコアが包埋されている

〈受け付け不可の例〉



1枚のスライドに、複数の切片が載っている



異なるブロックから作製したスライドを組み合わせて提出する